

p.132

表13.1 抗インフルエンザウイルス薬の用法・用量

(誤)

一般名	ペラミビル水和物
予防投与	・ 10 mg/kgを15分以上かけて単回点滴静注 ・ 症状に応じて連日反復投与できるが、投与量の上限は1回量として600 mgまでとする。

(正)

一般名	ペラミビル水和物
予防投与	—

p.133

2. 適応症，用法用量（左欄上から5行目）

(誤)

(ペラミビル，パロキサビル マルボキシルは治療のみ)

(正)

(ペラミビルは治療のみ)

p.256

1. 概要（左欄上から9行目）

(誤)

しかし、①常在細菌叢以上に病原性を発揮する細菌が増殖する、②抗菌薬などで常在細菌叢が駆逐された後に増殖する、③そもそも細菌と関係なく腸管上皮細胞に感染するウイルスや原虫によるものなどによる。

(正)

しかし、①常在細菌叢以上に病原性を発揮する細菌が増殖する、②抗菌薬などで常在細菌叢が駆逐された後に**病原性を発揮する細菌**が増殖する、③そもそも細菌と関係なく腸管上皮細胞に感染するウイルスや原虫が**原因となることにより、消化管感染症を発症する場合があります。**

p.258

7. 予防（左欄下から17行目）

(誤)

具体的には肝臓であれば胆管を含むため、内部まで加熱するなどである。

(正)

例えば、牛の肝臓（レバー）であれば腸管の菌（O157などの腸管出血性大腸菌）が胆管などを通じて肝臓内部に入るため、レバーの中心部まで十分に加熱する必要がある。

p.258

1. 概要（右欄上から8行目）

(誤)

傍聴

(正)

膨張

p.259

3. 病態（左欄上から6行目）

(誤)

また、特殊な急性胆嚢炎として無石胆嚢炎，黄色肉芽種性胆嚢炎，気腫性胆嚢炎，胆嚢捻転症に分類されている。①胆嚢管に閉塞のある急性（閉塞性）胆嚢炎，②虚血や集中治療患者における急性（非閉塞性）胆嚢炎（≒無石胆嚢炎）に分類している。

(正)

また、特殊な急性胆嚢炎として無石胆嚢炎，**黄色肉芽腫性胆嚢炎**，気腫性胆嚢炎，胆嚢捻転症**があり、これらは①胆嚢管に閉塞のある急性（閉塞性）胆嚢炎，②虚血や集中治療患者における急性（非閉塞性）胆嚢炎（≒無石胆嚢炎）に分類される。**

p.259

3. 病態（左欄上から11・12行目）

(誤)

黄色肉芽種性胆嚢炎

(正)

黄色肉芽**腫**性胆嚢炎

p.377

図13.3 粟粒結核の胸部CT所見（転移性肺腫瘍との比較：自験例）

(誤)

膿性眼脂

(正)

粟粒結核

(誤)

水様性眼脂

(正)

転移性肺腫瘍